

祝言

小謡本

全

143  
95

東 京 圖 書 館				
一 冊	九 號	六 架	三 函	音 樂 遊 藝 類
				和 書 門

075001-000-1

143-95

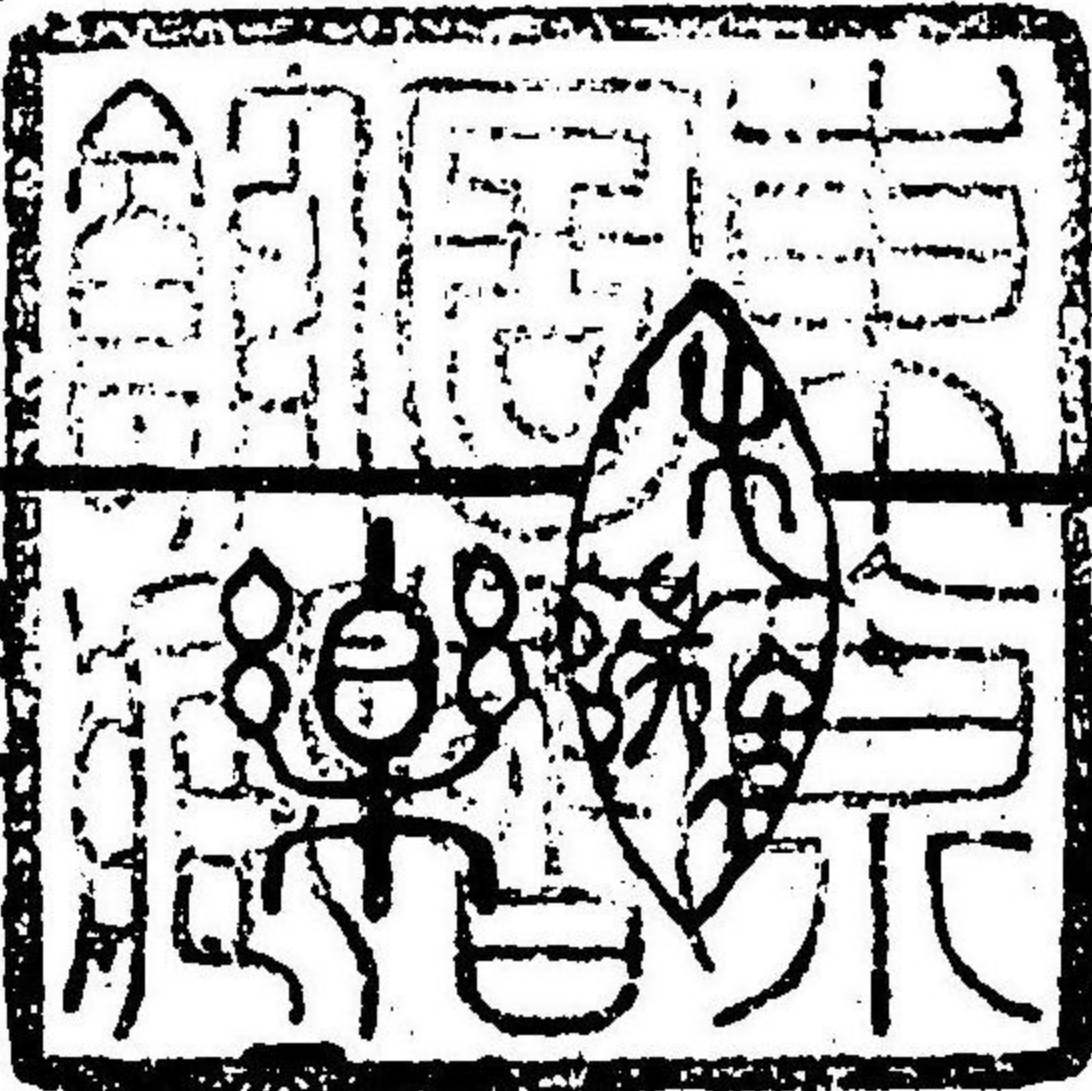
祝言小謡本

蘆田 清保/編

M15

CEL-0925





序

記曰樂天妙出和也故  
審聲已知音審音已知樂  
審樂已知政而得諧備矣  
其樂也申於宗廟祀饗事  
於山川鬼神此可與民同

而所謂屬和者豈夫唐甄  
諉和詠謠原其濫觴則從  
三皇出始傳續而至于粵  
也雖然其譜洋渺而非康  
涼能可閱故夫屬便臨賀  
席謠祝詞出童蒙後惟允

甲午二月廿四日

實政子子律中



ヤトル

ヲクリ

引取

片地

本地

ヤ

-ヤ

-ヤ

-▲

-▲

-△

-

-

-

ハ-

-ハ

-ヤ

-ハ

●-

-▲

-▲

-▲

ハ-

○

-

-

-

ヤ-

-ヤ

ヤ-

ヤ-

○-

-▲

○-

○-

-

-

-

-

ハ  
○  
ハ  
○

ハ-

ハ-

ハ-

ハ-

○-

●-

●-

●-

-▲

ハ-

ハ-

ハ-

○

○

○

凡例





なまきみの。めぐみぞあうがうた

同

どころい言破れおのへたまつもやあり  
て。れいのあみもようや。このまじがの  
おちぞかくもまで。のちあうしてあさ  
つまでうまね松。それもむし。めいよ

のち。それもむし。めいよ

同

子秋のみどうとあして。あつるほどれ本を  
志あうまんす

同

ニる砂のおれへ乃か縁のれとすあり日あはさま  
かけて。志むいそげども松が忍れ。をりあはを  
なじかりごろう。たちよるかげれあはゆるふ  
かけどもおちぞの。はきまぬい。はあまを  
松のたれ。ちううせびし。ら。さ。ま。た。た

れかげらあがき壺のたどくあつらひ  
本れ。ならふも名ハ。言砂の。まの代のため  
おもあいおいのまりぞ。めでたま

新 波

いたふも。さうろぞきんわいひひさあ  
まはもばきしれみにきんる。たぶちま





はたさくれ△子秋がせいのちこそれたまを。た  
てまはる。

同

あまぬきみこつるれ朝はくき  
かよして。やうはのあまで。波もあふ。おろ  
きほめぐもはくたやほれかげよのも。あぢ

きこらげはみれ。あなれははちもまも。  
さうやうもはれ△なむをれむめの  
名ふたれふ。あほもよもあほぬく△一花  
心くれだ天个△。春あゆめよほむけ乃。  
あそあんせんぞめでたま

老 松









かろくれ

玉井

かろくれ命とくみてる日さうれ産もくじ  
アもまの美はきれたのほくれ。おろろ我ふ枝  
とほく縁て。も縁ともにあまのゆあさる  
玉井の。かろくちぎる。たのりや源地

ちぎる。たのりや

呉 腰

かまのあつた。も。かまのねれりやもみ残  
らばまのまれ送りけて。あまのねれさく  
れ。さかまでもあつた。まのねのしりさく  
さうもめでもみさたの。神もたか。か

まづも独りある。なつてゐる

諏訪

君の代。あよに八代をさげぬる。海もかろて若れもさ。まじくとも。多みう。たれも孫づい。かすま。まどもおしはさる。今も代ぞ。めでたき

いまの代ぞ。めでたき

蓬萊

まの代。あよに八代をさげぬる。海もかろて若れもさ。まじくとも。多みう。たれも孫づい。かすま。まどもおしはさる。今も代ぞ。めでたき

くすぬめでたうりれ

老松

はるか免れ上句よりひささびくるぞれ君の  
めすぬまのぬと。わが祈さくれ。ほげを  
あくるも。松くせも梅も。むさしぬまの  
めでたくれ

強部

春

木

春にあたり。きつとあふけの松月なつや  
まじりも若れ。まげもるやどのかが  
かづに△ゆきくれもゆらにて。松よる





かゝるや。さかしのすけからみぐる。日事  
ききふいありあぐる。けさうがハ。おどけま  
アサめのの。ゆきとありあやだ。馬れあま  
なれとせしに。さびらけみほれ。おま  
なアとむらけえはき。はりのあ

清  
る

春秋の。あぐあも夏れふいのおも。子け乃  
うげある。松が枝に。あそひまぐる。あそ  
ぎう△まげらりや。本もふま。はけさ  
あしそ。けしきう。あけとあしそ。け  
きうか

耶  
鄭







いふらん

常盤木

深きまのまじれ 松の葉もまじりて  
ふもとれたまう たりしは出代さざりて

羽夜

松のまじれまじりて 波にたぐはき

さなまに。約人ねるま。あぶぬら約を  
たぬま。あぶぬら

八尋

あまの山ねれ目なればのま。まじりて  
いふぐれま。あまのまじりて  
いふぐれま。あまのまじりて

らん

志賀

実りや果實てともまよひたしと夢のさかづ  
みちとかがしおしよまれ。及よかや  
みちとかがしおしよまれ。及よかや

西の橋

百ちどろ。さくばらなるこものあはに  
まうゆく日教屋て。はもよあはれそ  
れややよぶまうて花のとも△あもあ  
そめるよほに。たねも花る。さかづ  
もさかなる。さかづ

海











めい志よりれ

舟生嶋

アよく志もかけ志づんて日奥本に仕ふる  
事又あり。月海上にうかんでうさざりも  
波を。はしふらもしら此嶋に。けしき

同

あまの志をさだなみや日志賀れうらぬおち  
あまの志をさだなみや日志賀れうらぬおち  
あまの志をさだなみや日志賀れうらぬおち  
あまの志をさだなみや日志賀れうらぬおち

羽衣

みどりい浪にうらたつが  
あまの志をさだなみや日志賀れうらぬおち  
あまの志をさだなみや日志賀れうらぬおち  
あまの志をさだなみや日志賀れうらぬおち

たきふれ

慈野

雨ころあふりていそ一尋目さくおきれ  
ざかりあふれおきれ。けりあふりあふり  
あふれ。りりりり

新井町

和寿の道あふれ神もゆりたハ天日ませ  
あふりあふりあふりあふりあふりあふり  
あふりあふりあふりあふりあふりあふり  
あふりあふりあふりあふりあふりあふり  
あふりあふりあふりあふりあふりあふり  
あふりあふりあふりあふりあふりあふり

田村

長宗師のげハありのれ天をたふりあふり



急ぎはる。それらひあつて今ふと  
ともにつげきれたのち枝ぞめでさま

虎送

よー大いそれみるあもふんた  
も心あましくさつる海を飛ぶ  
こーめさねよ

松虫

家と勢れあはれとも限りや朝まのむね  
糸もほききりりしまでくしまで  
かゝぬ友こそ、かゝるる帝れたる  
れかゝるたのちれたかゝるれ

鞍馬天狗

花咲き。はげしく。甲斐の法かい  
きたる。むまにく。鞠のれら。き  
△<sup>知</sup>お枝おとま。おくもまよ  
じ。ま。く。ま。の。な。み。あ。て。い。り。さ  
花とあがめん

小 壇

ちりも。さ。お。ぬ。花。か。り。よ。も  
お。な。さ。け。れ。道。に。さ。え。い。お。い  
お。ら

右 近



まゆもまきき梅り枝の目たちも又て  
それかいたるつ花を海むら目れ。なが  
やきたに。はぐん。もぐえやふに。はぐ  
え

さ 妙

実かあひれんか。ふもあひらやか。ふ

すあふとてはいらる。君れめぐそあ  
つぐんた君れ。めぐみそあがた

同

なぞしつまざらまは君れも又て  
めいあふもそれも又て。めいあふ

同

たゞくあつらふもさきへ来れ。なつしも多ハ。  
さうゆれまひ代のためーにもねおいれま  
つぞめでたき

雑波

ふ秋万葉の同ちたるこれたぬをなすまつ

葦菜

後と壽命をゆずりたるや。是れちたるを  
香をよめて。さうよと出居れかきけ。め  
ぐる日も虫家ふる。ゆくすあめでたうなれ

老松

はるあけ上。よひをさけく。これ君の  
ゆくすあまのぬくまがゆき。はげを

馬に走る。松うねりも梅も。さきしきまきま  
のてたぐれ

さ ぶ

有難れやうがくや日月行者の神あそび。  
みうげとわぐむあはさまよ 実さ海ぎる  
れまいねれ。夢もすも多うねれ何の。

松うげもうはるあね。せうぐいさかこれ  
やん上北 神と雲との道まづた。いかに  
喜んゆへうハミテ それぞぐん考やうら  
くたまい地さそだんせいの ねみくらも  
さきかいたねハ。あく海どえさひ。お  
さむらひハ。身板といひた。おき

らくい氏をむで。万さらくかハ命との  
甲。おねいれねく。さらくくね。た  
ふ。おねいれねく。さらくくね。た  
ね。むさらくくね。たのしむ

羽衣

然るに月宮殿にありき。海。ぎらぐらぬ乃  
去。ゆらとこしなく。白衣を脱ぎて天へ  
た。救と云ふに。一月。あぐのあぬ  
乙女。ほろじと。我も  
救ある天乙女。月。か。た。わ



よんで。月もくもぬ日はあや

上三  
家三

君が代ハ。あはれ御夜まぬよ来た。月か

はしもあはれくもほほほ。さきもたくな

アあはまら。あはれ御夜まぬよ来た。月か

ちもくもぬ日はあや。月もくもぬ日はあや

アあはまら。あはれ御夜まぬよ来た。月か

をうりて。あはれ御夜まぬよ来た。月か

あはれ御夜まぬよ来た。月か

あはれ御夜まぬよ来た。月か

東水

あはれ御夜まぬよ来た。月か

あはれ御夜まぬよ来た。月か

かゝるしきあり。しよんは時ある花の如。雪  
井は妻はそももでも。たゞひきこらうは  
種とて。てんはふかある。あゝきんたを  
クセヤチどららバ丸をた。たゞらほくたねらち  
あて。おゝきんた。たゞらふまのうはら。  
あゝ情をたたらふまのうはら。たゞらふまのうはら

山がけに花の如。たゞらふまのうはら。  
花も。しよんは時ある花の如。雪  
たゝんたあるそとの花。たゞらふまのうはら。  
をたたらふまのうはら。たゞらふまのうはら。  
うはら。しよんは時ある花の如。雪  
たゞらふまのうはら。たゞらふまのうはら。  
たゞらふまのうはら。たゞらふまのうはら。





みかろそ。さあまらう方。あまそ  
りくごり。いそなまのぐねまはまらう。たき  
はながれいさしたぬれ。あまの伏やまらぬ  
が。地あもあくるんし大井川。あられを  
そまらたぬらまら。あじたそこの  
あまらる。はまらあまら。なぐらあまら  
地

きよ藤川の水くぬ。たら祿のまのま  
とけぬま。あま日まあらめてく備ま  
地まあまらあまのたまあまハ下マテ  
下からた書あくのま地りまらぐたけも  
マあれうんや。あたぬもあれまらう  
地。ま井ハねあじいあまら。まら日も





となすべしと。ねー怒のまゝたなすわざ  
れ。しだいしだいた。ふつきれみとなり  
てい

津本

河  
つてそれ時のをちれ本ハ。梅さうら雲  
にてありよた。かか真に物因哉中た

梅井・上野小松枝。人きて三ヶれた。まゝ  
強くに初まで相違あつさる。白筆れ状。  
安堵又あそく強らつてい

用は  
大蛇

其後活家の出はらみ日家に宮指れ  
はしら。きくのちをせあて。はま垣  
はくも。まじ家の。美二十文字の忍い  
れをどめあるべし

日産 東方朔

暮かくて吹風れ日神も涼き夕暮るれ

なびく福系れふまでも。ふとせの秋乃  
をどめあけふとせれ秋のをどめくれ

日産 雷電

中にもまの雲れはげし。師才三  
世にまのいふし。かじけあし師才三  
かげをいうでふむへま

日和 鼓 浪

るるをどやんで。碧巖は若又た月  
なるも。今又ねのひあふれんと。を  
入すはいつてあ。けらに一ああさん

日和 雨 月

ねましも秋ま。二又お申の新月也。二

千里はあまでもころあふ。秋のま  
面い又瀟湘の。あは景のあふ思ふ

日和 項 羽

天北川。淮漢よりて七夕也。年に一  
ふらせよ。秋風吹は浪のまよ。みら  
をたあぬ山ぬ。水音あふるやむ乃

みもぬべたさおふよ三たし棹とさそふよ

日和 九月九日

おらぞやをらん細おれまかきに白ふ  
ふ葉れ。夜をかざして誰も云る。子奉  
の秋や。ちきく人ふとせれ秋やちきく人

日和 定家一字歌

柿交あれ。一字は影を春は先 露を  
梅柳やけび楊桃和あ子維ふや雨を  
糖るく。董葉秋あつじぬ夏ふも  
あれは萎草。郭云又月白水鷗乃  
るに卵は花。常命蝶にあふ花ち  
す。泉や秋ハ又 上 秋ハ秋ハ秋ハ







